



新年を迎えて… 秩序ある体験による規範意識の醸成！

新年明けましておめでとうございます。令和5年、西暦2023年。そして令和4年度最後の三学期がスタートしました。

お正月は、ご家族で楽しく有意義な時間を過ごせたことと思います。大きな事故もなく、葦高小学校の子ども達がそろって三学期のスタートができて本当に良かったと思います。

そして、今日とてもうれしかったことが、運営委員会やボランティアの子ども達を中心に、毎朝の「あいさつ運動」やそうじ等の「奉仕活動」が、今まで通りに、始業式の今日も続いていたことです。改めて、自分たちで考え、行動できている葦高の子ども達を誇りに思っています。

挨拶など人と関わる術や規範意識は、これまでの経験や学習によって学んだことをもとに、正否や善悪の価値判断として身に付きます。ところが、今日、自分で判断できないことに対し、「その人の自由」ということで、自分の責任を回避してしまうことが多い社会です。同時に社会性の低下が取り上げられても、個人の好みの問題として片付けられ、人と違うことをすることが個性であり、良しとする風潮もあります。そこでは違うことのみを価値を見出し、人間の尊厳に関わることさえ、個人の自由であるかのように捉えられることが多いのも事実です。その結果、違いの位置づけが規範を超え、ルールや決まりさえ必要ないという無秩序な状況が生まれることも否定できません。それだけに、秩序ある体験による規範意識の醸成が求められると思います。

子どもたちが学ぶべきことは、秩序であり、今の環境において、決まりやルールを通して、規範の存在を実感することが大切です。そのことが自分の存在とともに、相手の存在を尊重できる責任ある姿勢を培うものと言えます。ルールによって、学校生活やさまざまなスポーツがより楽しくできるように、お互いが豊かに生きるための共通の宝として、規範意識の定着を図っていきたくと思っています。

新年を迎え、今まで以上に、誰もが豊かさを実感できる社会の実現が期待されます。その実現は、子どもを取り巻く私たち大人自身が最も身近な教育環境であるという意識で、育てほしい姿をモデルとして示すことに他なりません。人生の良き先輩として、身をもって規範の存在を示し続けることが、何よりの教育であり、「教育は人なり」ということを心に進んで参りたいと思っています。

令和5年も、保護者の皆様、地域の方々、そして、本校教職員が丸となって、愛すべき葦高の子ども達を育てていきましょう。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

校長 藤井 朗

葦高小学校の規範意識の礎 「凡事徹底・さしすせそ」



さわやかな「あいさつ」



しずかな「ろうか」



すばやい「集合」



せっせと「そうじ」



そろった「くつ箱」